



おと
弟妹
いも

女体化した弟は
俺の弟で妹で恋人でそして嫁

オリジナル
TS女体化
CG集

おと
いも
弟妹

女体化した弟は

俺の弟で妹で恋人でそして嫁。



おと 弟妹

このたびは
『弟♥妹』
をお買い上げいただき
ありがとうございます

『弟♥妹』には
にいの目線で話が進む
『お兄ちゃんパート』
と
ボクの目線で話が進む
『弟ちゃんパート』
があります

『お兄ちゃんパート』
↓
『弟ちゃんパート』
の順で見るのがおすすめです

え？
ボクの自己紹介ですか？
えっとボクは『優』と言います
にいのことが大好きです
にいつてのはお兄ちゃんのことです
にいのどこが好きかと言うと……
まずカッコよくて… 優しくて…
あと走るのもすっごく早くて…
いつもボクの宿題を見てくれて…
なでなでしてくれると嬉しいし…
ホト笑顔がフニヤダし… それに



『優君』
性別は今のところ男の子
お兄ちゃんが大好き
にいと結婚するのが夢
最近オナニーを
覚えたもよう



『にい』
病的に弟が好き
でも優君は男の子
だから手は出さない
きっと出さない…
出さずにいたら
いいなあ……
いやしかし…
少しくらいなら…
いやいやでも…
あるいは…



『田中』
隠れキャラ
そして元凶

おと
いも
弟妹

女体化した弟は

俺の弟で妹で恋人でそして嫁。



「にぃ助けてえ……」

可愛い声で助けを求めているのは俺の弟の優君である。
特徴は ①純真 ②可愛い ③ウルトラ可愛い
血が繋がってなかったら間違いなく手を出していただろう
血が繋がっていても妹だったら確実にイタズラしていただろう
神の設定が少し狂っていたら性犯罪者の道一直線だったせ……
しかし今日の優君は色っぽいな……いつもの5割増してさ……



「どうしたんだい優君？」
焦りを感じ取られてはいけない……

「コーヒーを飲んで落ち着こう……
カフェインよ俺に力を！」

「にぃ……僕……僕……」

「大丈夫だよ優君 落ち着いて」

「おなにしたらオッパイが生えちゃったのっ!!」

プ——ッ!!

「ななな……なんだって優君!?」

思わずコーヒーを吹き出してしまった……

「白いおしっこが出たらね……おっぱいが……」

ゆ……ゆゆ……優君におっぱいっ!?

てか優君オナニーなんてしてたの!?

いや……そもそももう精通してたの!?

ふう……落ち着け俺……落ち着くんた……

「と……取り敢えずおっぱいを見てみようか……」

「ね…おっぱいあるでしょ…」
うおおおおおっ！
小ぶりながらも僅かにぶっくりとしているそれは…
マジでおっぱいじゃないですか優君っ!!
「ご…」クリ…
触りたい…つまみたい…なめたい…しゃぶりつきたい!!
「ねえにい…僕病気なのかなあ…?」
まずい優君が不安になっている…落ち着かせねば…!



「大丈夫だよ優君！思春期は誰だってそうさ」
「兄ちゃんなんてEカップになったもんさ!」
「そうなんだ！よかったあ…」
ああもう優君は天使だな！なんても信じるんだから!
「優君…下の方はどうなってるのかな?」
「下っておちんちん? 見てないからわかんない…」
「そうかな兄ちゃんも見てるから確かめてみよう」
よし！自然な流れ！これで優君の可愛いアレを見れるぜ!
「え…? にいも見るの…? それはえっと…」
「これは診察です！さあ優君 兄ちゃんに見せてみなさい」
「うん…わかったよにい…」

くっ！優君ちゃん可愛いっ！！更におっぱいとかもう……！！
「あう……ちょっとだけ小さくなっててもいいかも……」
「そうかな？前に風呂で見た時はこんな物だった……んっ！！」
「小さくて分かりづらいけど……優君もしかして勃起してる！！」
「そ……それは……にいが……見てるから……」
「え？俺が何？」
「もお……そんなのいいでしょ！にいのバカ……」
え!?俺が何なの!?ああもう！怒ってる優君も可愛いなっ！！



「ねえに……もうパンツはいてもら……」
「それをしようなんてしても無いー」
「じゃなくて……えっと……」
「ダメだ！何とかして優君のちゃんを出したままに……」
どうすればいい!? 考えろ！閃け俺の脳細胞っ！！
「よし優君！オナニーをしてみようー」
「え!?お……おなに……? な……なんて……」
「おっぱい出現の条件がオナニーかどうかを調べるには」
「もう一度オナニーをするのが一番なんですよ優君!」
「だから別に兄ちゃんが見たいってわけじゃないよ……」
「実験と検証なんだよ優君! だからさあオナニーを!」
「さあ! 兄ちゃんが見ておけるから! さあ! さあっ!!」
「うん……わかったよ……僕のおなにを見てねに……」
そりゃもう見るよ！見まくるよ！脳内HDDに保存するよ!!



「ん……あ………はあ………」

おお………優君の生オナニ………
 愛らしいちゃんなくにくにして………
 オナニの仕方まで可愛いな優君は………!!

おとまり
 リコー

[illegible]

「あんっ！にい…んっ！にい…」
「にい…あう…にい…にい…」
おおおおお!!俺のことを呼びながらとか!!
可愛すぎるっ!!エロ過ぎるよ優君っ!!

はっ



俺の弟が
萌え萌え可愛い

おとこ
リコー

「あう…にい…はためだよ」
「ちよ!想像の俺は優君に何をしてくれるの?」
「んっ…にい…にい…」
「ゆ…優君っ!」
「にちすぎら…あっ…だすぎら…」
「あう!にち…でちゃうよ…」
「あう!あんっ!にちのちんち…」
「えい!ちよ…!!ゆ…優君っ!」
「だめえ…白いおしっこでちゃう…」
「ボクのちんち…にいのちんち…」
「あう!あう!でるう!でちゃうう!!」
「んんっ…!!」

「あんっ……あう……はぁ……」
「いっばい出したね優君 気持ちよかったのかい？」
「うん……にいが見てたからかな……?」
「いつもよりおしっこいっばい出ちゃった……」
「ああもう可愛いな優君は！ おしっこそれ精液だから!!」



「それにしても優君……オナニなんてどこで覚えたんだいの？」
「えうとね……クラスの女子のたなかさんに教えてもらったんだ……」
「じよ……女子が男子にオナニを教えるだ……? たなかめ……」
「好きな人のことを考えながらちゃんをこすたらいいって……」
「こすこすがよくわかんなかったからくにくにしているの……変かな？」
「変じゃないさ……優君らしくてすこくかわいかったよ！」
「可愛すぎて動画で保存したかったくらいだよ！」
「あ！ なんてしなかったんだ!! しくじった!! 俺のアホっ!!」

「おっぱいの大きさを変わらなかったねに……」
「そうだね……残念だね優君……」
く……もうと大きくなるかと期待してたのに……！
「にいがめんね……にいのベッドおしっこで汚しちゃった……」
「全然構わないよ優君！優君が出した物に汚い物なんて無いからね！」
「言うか兄ちゃんむしろ飲みたいくらい……」
「え……にいボクの白いおしっこ飲みたいの……」
しくじったっ!!興奮して口を滑らせてしまったっ……!!



「白いおしっこ飲むの……あ……でも……」
「ん……どうしたんだい優君……」
「にいもおなにいしたら白いおしっこ出るんだよね……」
「そりやあもちろん！優君の10倍は出るわっ!!」
「そんなに!?にいすこい……やつぱりにいは凄いわっ!」
ま……まさかこんなことで尊敬されるとは……
「ボクね……ちょっとだけ想像したの……」
「にいがおなにいして白いおしっこ出してる」……
く……一体どんなのを想像してるのだろう……
「ボクもちょっとだけ……飲みたいかなって……思ったかも……」
「まじですか優君!?じゃあ飲もう！直接飲みましようっ!!」
「えあ!?ちょくせつ!?にいのちんちんからそのまま飲むの……」
「そうです！兄ちゃんのちんちんを咥えて直接飲むのですっ!」

「ほわ… ぽいのちんち… えっと… どうしたらいいのよ…」
「そうだね優君 まずは舐めてみようか」
「う… うん… ぽいのちんちんをなめる… ほう…」
ああ… 弟が… 優君が俺のちんちんを舐める…
うわ… 優君の可愛い舌が俺のちんちんを…
「いいよ優君… 兄ちゃんのちんちんはどんな味だい？」
「えっとね… なんだろう… ぽいの味って感じかなあ？」
お… 俺の味!? それってどんな味なの優君…!?

俺の弟が
萌え萌え可愛

「それじゃあ舐えてみようか優君 てさるからっ」
「う… うん… やってみる… ねえにち…」
「うまくてきなかったら… その… ごめんね…」
くはっ!! ゆ… 優君っ!!
「ん… おっさ… んあっ…」



「んっ… おくちのなかにいていっばい…」
「ああ弟に… 優君にちんぽを咥えさせている…」
「ねえに… ちゃんときもちいい…」
「勿論気持ちいいよ… ちんこが溶けそうだ…」
「えへへ… もっと気持ちよくなってるに…」
「うあ… そんなこと言われたら優君…!!」
「ふふ♡ 気持ちいいのに？ 気持ちよくなってるに♡」
ゆ… 優君!? もしや意外と小悪魔!? うあ…!!

俺の弟が 必然

「出る！ 優君出るよ!! 精液出るよ!!」

「んっ… っんっ…!!」

うあ… 弟にフェラさせてる背徳感…

射精が… 止まらない…!!

「優君! 無理だったから離していじからね!」

「ん… っいのちから… じえんのちから…」



「あう…ちょっとごぼしちゃった…」
「ごめんねに…全部飲めなかった…」
「十分だよ優君!! よく頑張ったね…」
「不味かったらベツしてくれていいんだよ」
「ん…にいのえっと…せいえき…」
「ボクね…きらいじゃないよ…」
ゆ…優君!! もう! なでなでしちゃう!!



「えへへにいのなでなで大好き…」
「ねえに…ちんちん気持ちよかったなら」
「ボクまたお回なにいしてあげるよ…」
「う…優君…君って子は…」
「そしたらに…またなでなでしてね…」
「実は優君 もっと気持ちいいのがあるのです」
「それはちよっと痛いかもしれませんが…」
「痛いの…? でもに気持ちいいんだよね?」
「にいが嬉しいことなら…ボク頑張れるよ!」

「あつ！いい……！何してるの……!?」
「だめだよ……そこお尻の穴だよ!?」
「優君はお尻の穴まで可愛いねえ」
「あつ！いい……だめだつてえ……」
「優君 お尻 気持ちいいかい？」
「そんなことお……… あんっ!!」
「これからね 優君のお尻の穴に」
「兄ちゃんのちんちんを挿れるんだよ」

「あんっ！に……にいのちんちんを……や」
「だからちゃんと入るように屈んでるんだよ」
「あつ！そこ触っちゃ……んっ……んあつ!!」
「にい……ボクのお尻でおなにしているの……」
「違うよ優君 これからするのはセックスだよ」



「せつくす…おなには違ふの…」
「セックスはね好きな人同士でする愛の行為なんだよ」
「え…!? す…好き…? あい…」
「分かるかい? ちんちんがお尻の穴に当たってるの」
「うあ… ちんちん… すごいあついよあ…」
「兄ちゃんは今 優君への大好きって気持ち全部」
「ちんちんに込めているんだ それを優君!」
「お尻の穴で全て受け止めて欲しいんだ!!」
「え!? ええええええええ!!」

お尻

「えあ…でもに…これって多分えつと…」
「よく分かんないけどイケナイと…だよあ…」
「正直どうです! 兄弟でしちゃダメなことです!!」
「そ…そうだよあ…でも…にいはしたいの…」
「うん! ずっと前からしたいって思っていました!!」
「…ん…そっか…そう…なんだ…」
「に…ボクもね…大好きだから…」
「だから…いいよに…しても…」



ああ……優君とセックスが出来る！アナルセックスを……!!
「ほら優君わかるかい？」
「兄ちゃんのちんちんが優君のお尻の穴とキスしてるよ」
「ねえに……ほんとにおしりに入れちゃうの……？」
「こんなのしていいの？おまわりさんに怒られない？」
うぐ……ほんとにいいの俺？引き返すなら……..
「ぶに……！おしりの穴ひらいちやうよに……..
ここで止められるわけあるかあああああああああ!!
「例え逮捕されようと兄ちゃんはやめせんっ!!」

「はあ……ああ……!!ちんちんきちゃう……!!」
んあ……龟头が入った！なんだこの尻穴……
キツキツなのに優しく包み込まれてる……!!
「ゆ……優君大丈夫かい？いけそう？」
「んっ……えへ……だいじよぶだよに……」
「にいのちんちんでお腹一杯だけ……平気だよ……」
「これから動かすからもつときついけど大丈夫かい？」
「うん……こんなの初めてだけどだいじよぶだよ……」
「えへへ……だって……にいのちんちんだもん……♡」
ゆ……優君！天使すぎるよ優君……!!
「ごめんね優君！兄ちゃんもう止められそうにない!!」





「優君のお尻の穴がちんちんを食べてるのが」
「にや!? あんっ♡ もあ…にいのほかあ…♡」
「そのぼっかり開いてるお口がアナルだよ」
「そして今ちんちんが当たってる…!」
「んにっ!? あんっ♡ はにやあああ♡」
「それが前立腺! ちんちんを挿れられるのが好きな」
「優君の! 女の子の部分なんだよ!!」
「あんっ♡ そんなにちんちん叩いちゃ…♡」
「つぶれちゃうっ♡ ふにいいっ♡♡♡」

「んっ! あんっ! ちんちんおっき…!!」
「凄いや優君のアナル! ちんちん絡みついているよ!」
「ふにゅっ! あ…おにやる? はにっ♡」
「にに! ちんちんかあたってるとよ♡ にやにこれえ♡」
「ほら! 優君! 前を見てごらん!! 見えるかい?」

ああ。。。優君の中に射精した。。。優君を精液で汚した。。。
「はにや。。。♡中になんかいいばい。。。♡はあ。。。♡」
「しゅごいねに。。。これがイクなんらね。。。♡」
「ご。。。ごめんね優君。。。♡」
「え。。。に。。。なんれあやまるの。。。♡」
「我慢できずに優君を活していいわるもしちゃって。。。♡」
「らいじよぶらよに。。。♡にの気持ちわかってるよ♡」
「今ボクの中はね♡にの大好きれいいばいなんらよ♡」

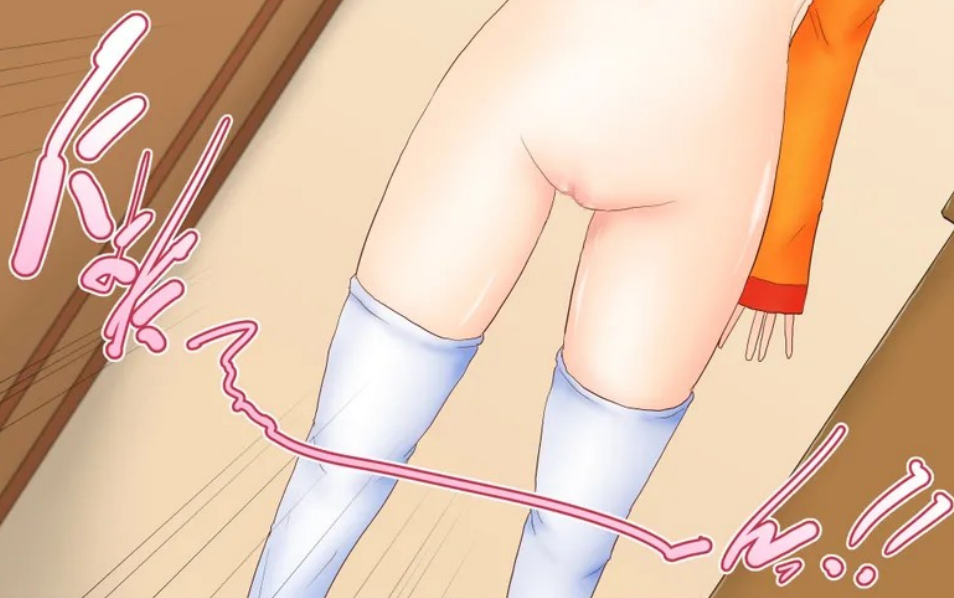
「ゆ。。。優君。。。♡」
もう！とんだけ天使なの君は!?

「じゃあ抜くよ優君。。。♡」
「んっ。。。♡に。。。♡んにゃっ。。。♡」
「あんっ。。。♡ふに。。。♡」
「にいらぬ。。。♡ちからはんにやいや♡」
「優君のお尻の穴最高に気持ちよかつたよ」
「んへ♡えへへ。。。♡よかったあ。。。♡」
うわ。。。優君のアナルはっくら開いて。。。
「クリ。。。またしたくなってきたぞ。。。♡」
「て。。。ん。。。あれ。。。♡えう。。。♡」
「どうしたのに？あ♡またするの。。。♡」
「もちろんしたいけど。。。じゃなく。。。♡」



「優君のちんちんが…無いっ…!!」
「えあっ!? ほ…ほんとだ…!!」
「ち…ちんちん無くなっちゃった…」
「ねえに…ど…どうしょあ…」
「おっぱいもまた大きくなってるじ…」
「はわ…あう…に…にち…!!」

これはもしやアナル射精しちゃったからか…?
としたら完全に俺のせいじゃないか…!!
「えっと…優君落ち着いて…」
「そうだ落ち着くんだ…よく考えるんだ…」
「ちんちんが無くなって…だからえっと…ん…?」
「あれ…?別に無くてもいいんじゃない?」
「と言うか優君さえ納得したら無い方が良くないかね?」
「となるとなんとかして優君を納得させねば…」
「ちんちんなんて無い方が良いと思わせるのだ!!」
「よし! 優君!」
「え…」
「取り敢えずこれを着ましようっ!!」



「に……に……なにこれえ……」
「ボク男の子だよ……こんな変だよ……」
「優君はおっぱいがあってちんちんが無いんだよ!」
「もう優君は女の子なんだよ! だから変じゃないよ!!」
「で……でも……ボク……男の子だもん……」
「似合ってるよ優君! 可愛さ3倍! いや百倍だよ!!」
「ん……でも……やっぱり脱いでら……」
あ……あれ? 褒め殺しが効かない……



「だってこれ……にいのカノシヨの人の服でしょ……」
「え……ん? え? 彼女……?」
「こんなの持ってるってことは……そうなんだよね……?」
「ボク脱く……こんなの……やだもん……」
「いやいや! いないから! 恋人とか彼女とかいないからね!!」
「うそ……だってにいかって良くて優しいもん……絶対いるもん……」
「いるわけ無いよ! 兄ちゃんが好きなのは優君だけなんだから!!」
「えう……に……ほ……ほんとに……」
「本当だよ! この服は優君に着せたくて買ったものだしー!」
「優君が女の子になって兄ちゃん超ラッキーだと思ってるしねー!」
「て言うかこれ優君をお嫁さんにしてさるとか思ってるくらいだよ!!」
「に……!? およめ……さん……? ボクがにのお嫁さん……?」

「優君 ちゃんとパンツも履いたのかな？ スカートをめくって見せてもらえん」
「ん…これいいのい…」
「おお…優君がおんなの子パンツを…川え…エロすぎる…!!」
「はい…そんなに見ないで… はずかしいよ…」

ぽ

ぽ

ぽ

「凄く似合ってるよ優君… 超かわいらしい」
「か…かわいい!? あっ…かわいい…」
「あれ？ 優君少し濡れてきたねえ…」
「え…？ めれるってなあに…」
「優君がエッチな気持ちになったってことだよ」
「かわいって言われて嬉しかったのかな？」
「それともパンツを見られて興奮してるのかな？」
「あっ… そんなこと…」
「うっ… もあ… 川のちねも…」



「あう……！なにしてるのい……!? ちんちんめないてえ……」
「ちんちんじゃないよ優君……ここはおま○こだよ」
「あんっ♡お……おま○こ………?」
「優君のエッチで敏感なおんなの子の部分だよ……」
「に……だめだよお……んあっ♡そこはあ……」



「うわ……！なんだこれ……優君の愛液甘くないか……?」
「元弟で現妹の愛液ってこんなにも美味しい物だったのか……!?」
「体力が回復しそうだぜ……！これはもはやボーション……いやエロクサー!!」
「んにゃっ♡やだに……ボクのおしっこ飲んじゃだめだよ……」
「これは優君のエッチなお汁だよ……溢れて止まらないね……」
「優君はエッチでイクナイおとこの子だったんだね……」
「あんっ♡だってにいが……んっ♡なめてくれるんだもん……」
「いいんだよ優君 いっぱい濡れないと兄ちゃんのちんちんが入らないからね」
「え!? にいのちんちんいれるの……? そっか……いれるんだ……♡」
「優君のおま○こに兄ちゃんのちんちんを挿れて恋人セックスをするんだよ!」
「こ……恋人!? ほ……ボクとにいが……恋人……♡」

「優君のいかにセックスをするよ…」
「うん…うん…うん…」



「初めての恋人セックスは痛いけど我慢できるかな…」
「せつくすきたらボク…にいと恋人になれるんだよね…」
「だったらボク…痛いなんて我慢できるよ…」
「うう…うう…優君…」
「ああ…とうとう出来る！優君との恋人セックス…!!!
今まで何度夢に見…何度夢精したことか…!!!」

「あうっ♡ にいのちんちんが… あんっ♡」
「かららひらいちゃうよぉ♡ あほぁっ♡」
「大丈夫かい優君？ 平気？ いけそうや」
「だいじよぶだよ… にい… らける…」
「痛くないける… なんかに変になりそ…」
「頭のなか… にいとちんちんらけれ…」
「ほかが無くなっちゃいそなの…」

「それでいいんだよ優君」
「おま○こに集中して兄ちゃんだけを感じればいいんだ」
「うん♡ わかったよ…♡ セックス続けっ♡」
「それでボクの中を… らっせ… らっせ…♡」
「するよ優君！ 優君を兄ちゃんの物にするからね」
「よし！ 動くんよ優君！」



「あんっ♡ にいがボクの中に入ってるよぉ♡」
「ちんこが奥に当たってる…? そうか…」
「優君のおま○こはまだ子宮ができてないんだな
しかし優君ま○こ凄いな! 絡みついでる!」
「弟のおま○こに挿れてるっていう倒錯感…」
「背徳感で…溶けて射精してしまいたい…」
「はにに♡ にいのちんちんお好きすぎだよ♡」
「からちの中…ちんちんれいっばいだよ♡♡」



「そんなに気持ちいいのかい優君!? 兄ちゃんのちんちんが…」
「うんっ♡ きもちいいよぉ♡ うってにいのちんちんもん♡」
「やっぱりボクのおま○こ♡ にいのちんちん好きなの♡」
「にに♡ すき♡ らいすき♡ にいのちんちんれいすき♡」
「もぉ! 優君は! 純粋なのにエロいとか! このイケナイ子め!」
「うん♡ ボクいけない子なの♡ ちんちんめっ♡ ちんちんめっ♡」



11/20/2020

[illegible]

「あん……♡はぁ……♡はにゃ……♡」
「なんたこの精液の量は……」
「未だかつて無いほどに射精してしまった……」
「優君大丈夫かい……？ 平気？ 動ける？」
「あ……ちいじよぶらよに……♡」
「えへ♡ ちょっとあたまばーとしちゃった♡」

「えへへ♡ いっぱい出たねに……♡」
「ねえに…… いっぱい出たってことは」
「いっぱい気持ちよかったってことだよね？」
「正直異常な状況に興奮したってのもあるけど…… けどやっぱり……」
「ああ優君…… 最高に気持ちよかったよ」
「優君のおま○こが良すぎて兄ちゃんのちんちん溶けるかと思ったよ」
「えへへ♡ ちゃんと気持ちよくなってくれたんだあ♡ よかったあ♡」
「ぶふ♡ に♡♡ これポクといは恋人……だね♡」



「えへへ♥まだおなかの中がボカボカしてるよ♥」
「優君 お尻とおま○こってちが気持ちよかった?」
「えっ!? も……もお……変なこと聞かないで……」
うぐ……調子にのってしまった……優君怒らなれて……
「にいのちんちんだもん……どこでも気持ちいいよ……♥」
「ゆ……優君……!!!」
ああもう! 天使で弟で且つ妹とか!!!
こんな素晴らしい存在をくれて神様ありがとうございます!!!



「そっかだ優君! お風呂に入ろう!」
「え……お……お風呂……お風呂でまたするの……?」
「ちち……違うよ! ほろ! 汚れた身体を綺麗にしようとお……!」
「あー兄ちゃん 恋人同士のお風呂でイチャイチャするのが夢なんだよ……!」
「お風呂でイチャチャ……うん♥入る! えへへ♥入るに……!」
「あ……でも……!」
「ん? どうしたんだい優君?」
「ボク全然汚れてないよ……だってにいのせいえきだもん……♥」
「くふっ……!!! ゆ……優君……」
「さあ入ろう優君! そしてイチャチャしまえろっ!!!」

「あんっ♡もおにい…これイチャチャじゃないよぉ…♡」
「しかたないよ！優君の産まれたままの姿が可愛すぎるから！」
「も…もお…♡にいのえっちゃん…♡」
「あっ♡んにゃあっ♡にいのなめなめ気持ちいいよぉ♡」
「ああもう我慢できな！優君♡こっへエッチしよう！」
「しないうって言ったけど♡じっさい優君♡うらかな？」
「もお…にち…♡」

「約束破ってごめんよ…」
「怒らないで優君…でも…」
「もお…違っよにち…」
「僕のおま〇はもうにちのなんだよ」
「だからにちがしたいなら…」
「いつでもしていいからだよ♡」
「う…優君…♡」



「あっ♡ あんっ♡ んにやああっ♡♡」
「なんれ？ あひっ♡ さっきよりなんかおま○こあ♡」
「ぎもちいいよあっ♡ にいそんなに激しくしないでえ♡」
「だめだよ優君！ 弟ま○こが気持ちよすぎて止まらないよ!!」
「もお♡ にい♡ もあ♡ しかたないんだからあ♡」

あひ

あひ

「ああ！ いいよ優君っ!!」
「んっ♡ 僕もいいよっ♡♡」
「ああ！ 射精するよ優君っ!!」
「うんっ♡ 出してっ♡♡」
「優君っ！ 優君っ!!」
「にいっ♡♡ にいっ♡♡」

あひ

あひ



「射精てる！ 弟ま○こに射精てるっ!!」
「んにiiiiiiiっ♡♡♡♡♡てるよぉ♡♡」
「にいのせいえきあつぃ♡ おふるよりあつぃよぉ♡♡」
「ああ！ 弟ま○こに全部吸いだされる！ 優君！ 優君!!」
「あっ♡ あぁっ♡ にゅ……♡ にゅ……♡♡♡♡♡」

「んびい♡♡♡♡」

「はふう……♡ボクの中にいていつばいだよ……♡」
「にいのせいえきお湯より温かいね♡ほかほかするよ♡」
「ああもう！可愛いな優君は！なてなてしちゃうよう！！」
「はにやつ!? あっ……ふにいつ……!!」
「ど……どうしたの優君!? 大丈夫かい!?」
「あ……だいじょぶだよに♡なんかお腹が……」
「お腹痛いのかい?」
「あ……もしかして兄ちゃんの精液のせい……?」
「んーん……なんかお腹の中がざりうってなつて……」
「なんだろ……今までと違う感じ……」
「ほう……♡に……♡ボクちよつと変かも……♡」
「な……なんだこの優君は……滅茶苦茶色っぽいぞ……」
「それに匂いが……さつきとちよつと違うような……」
「うお……これだけで勃起してしまいそうだ……!」
「ねえに……♡お風呂もうあがろうよ♡」
「優君!? なんかフェロモン出してない優君!?」



「ねえにぃ…ボクねお腹の奥がキュンキュンしてるの…」
「それでね…にいのちゃんが欲しくなっちゃったの…」
「だからねにぃ…えっとね…またボクに…して♡」

ゆゆ…優君が自分からおねだりですとお…!!?
なにこれっ!?もしかして俺今日死んじゃうのっ!?
「ねえにぃ…♡してくれないの…♡♡♡♡」
「するよ!します!しますともっ!!」
「もう優君がダメって言うても止まらないからねっ!!」
「うん♡♡♡♡いっばいして♡」
「ボクのおま〇こが壊れるくらいにっばいしてね♡」



「あん♡きた♡にいのちんちんきたよ♡♡」
「ふにいい♡ちんちんが奥にあたってるよ♡♡」
「そこらめえ♡ちんちんで♡コン♡しちゃらめえ♡♡」
「あ♡ん♡に♡ん♡に♡あ♡あ♡あ♡♡♡」



奥に当たってる!? これ…まさか子宮!?
優君の中に子宮が出来てる…!?

「に…♡♡ひらいちゃうからあ…♡♡」

「おなかのおくれなんかひらいちゃうよあ♡♡」

「優君それは子宮だよ!そこに精液を注いだら」

「兄ちゃんと優君の赤ちゃんが出来るんだよ!」

「あ♡♡えっ!?あかちゃん…♡ん♡♡」

「にいとボクの…あかちゃん…♡♡♡」

「あっ♡あっ♡あひいひいひいっ♡」
「あんっ♡あかちゃんっ♡あっ♡あかちゃんっ♡」
「射精すよ優君！優君の子宮の中に精液を！タップリと!!」
「あっ♡でもっ♡あんっ♡に♡に♡でもっ♡」



「いひの。。。ボクおとこの子だよ。。。♡」
「にひのあかちゃん作ってもいいの。ほーりっいはんじやないの。」
「そうだね優君。。。男なのに。。。弟なのに妊娠とかおかしいね。。。」
「だからこそ最高じゃないかっ!!」
「優君は嫌なのかい？兄ちゃんの赤ちゃんはイヤなのかい？」
「やじゃないよお♡ほしい！にひのあかちゃんほしいよお♡」
「じゃあどうして欲しいんだい？優君の回からはっきり言って!!」
「ボクはおとこの子らけどにひのあかちゃんがほしいれすっ♡♡」
「だからにひのせいえきをボクのしきゅうにっはっはっはっはっ♡♡♡」



「えへ…♡ にいいっぱいだったね…♡」
「しきゅうの中にいのせいえきていっばいだよ♡」
「ボクちゃんとじゅせいできたかな…♡」
「もしデキでなくてもデキるまで何度でもやるぞ」
「ぞっかあ…そうなんだ…♡」
「じゃあじゅせいできてなくても…いいかなあ…♡」
「ん？もしかしてまだしたりのないのかい優君？」
「えあ…だって…にいとせつくすしてたりその…」
「にいがボクのこと好きだってのが伝わってきて…」
「お腹がボクボカして…幸せなんだもん…♡」

「今朝まで男の子だったのにもうちんこ大好きとか…」
「優君はもう！エロすぎだよ！最強だよ！！」
「あつ…えっとなんだっけ…そうだ…！」
「ど…どうしたんだい優君…♡」
「ボクをこんなにエッチにして…責任とってよねにら…♡」
「も…もあ!! そんなのどこで覚えたの優君!!」
「取るよ責任！するよ何度でも!! 今夜は寝かせないよ!!」
「えへ♡ に…だあいすぎ♡」



「にすといね♥6回もするんだもん♥」
「兄ちゃんはもうカラッカラだね……」
「これだけしたらさうとじりせいできてるよね♥」
「きうとてきてるさ！ 楽しみたね優君！」

「ねえ、さういふ来るのかな……」
「ん……ん……何かなだの優君……」
「えうとねホクとにのあかちゃん」
「十月十日って言うから……十月後へらかな」
「じゃあそのときは窓を開けてかなきゃだね」
「ん？ ん……」
「やっぱ大きいのかな？ もしかして玄関から来るのかな？」
「ピンポンするのかな？ 寝てる間に来るのかな？」
「え？ 優君……まさか来るってのは……」
「もちろん」ウソトリだよー」
「マジですか優君……」

終

「弟ちゃんパート」に続く

おと
いも

弟妹

女体化した弟は

俺の弟で妹で恋人でそして嫁。





4月6日水天気(云)

今日にに

うひひひのめめさ

まかめまじい。

ボクは「うひひひのめめさ」

わくわくしてるよ。

うひひひのめめさ

わくわくしてるよ...

うひひひのめめさ

まかめまじい。

ボクは「うひひひのめめさ」

わくわくしてるよ。



10月15日土天気(云)

今日にに

うひひひのめめさ

まかめまじい。

ボクは「うひひひのめめさ」

わくわくしてるよ。

うひひひのめめさ

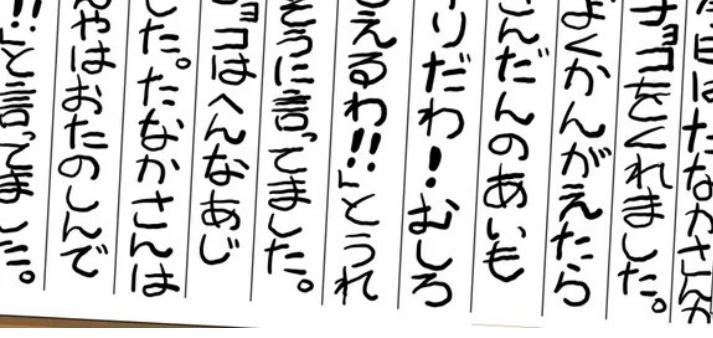
わくわくしてるよ...

うひひひのめめさ

まかめまじい。

ボクは「うひひひのめめさ」

わくわくしてるよ。



ボクの名前は「優」です
好きな人はにぃ……お兄ちゃんです
今日ボクは大変なことになってしまいました
だからにぃに助けてほしくてにぃの部屋に来ました
はぁ……にぃの部屋にの匂いがして落ち着くなぁ……
あ……じゃなかった……



「にぃ助けてえ……」
「どうしたんだい優君？」
「にぃコーヒー飲んでるやっぱりにぃは大人だなあ
うん！にぃならさっと治してくれるよね！」
「にぃ……僕……僕……」
「大丈夫だよ優君 落ち着いて」
「どうしよ……言つの恥ずかしいや……」
「でもちゃんと言わないと……」
「おなにしたらオッパイが生えちゃったのっ!!」
「フ——ッ!!」
「ななな……なんだって優君!?」
「はわ……にぃがコーヒーを吹いちゃった……
やっぱり変なのかな……?もしかして病気?」
「白いおしっこが出たらね……おっぱいが……」
「と……取り敢えずおっぱいを見てみようか……」
「そっか見なさやわからないよね……さすがに……」

「ね… おっぱいあるでしょ……」
「ご… クリ……」

あう… にいがボクのおっぱいをジッと見てる…
毎日いっしょにお風呂に入って見られてるのに…
なんてだろ… はずかしいよあ……

「ねえにい… 僕病気なのかなあ……」

「大丈夫だよ優君！ 思春期は誰だってそうさ」

「兄ちゃんなんて巨カッパになったもんさ！」

「そうなんだ！ よかったあ……」

そっかにいもそうだったんだ！ えへへ にいと一緒だよ

「優君… 下の方はどうなってるのかな？」

「下っでおちんちん？ 見てないからわかんない…」

「そうかなら兄ちゃんも見てるから確かめてみよう」

「え…？ にいも見てるの…？ それほんと……」

に… にいがボクのちんちんを見るなんて……

おっぱいだけでもはずかしいのにそんなの無理だよあ……

「これは診察です！ さあ優君 兄ちゃんに見せてみなさい」

うう… にいはボクのこと考えてくれてるのに……

ボクははずかしいだなんて… にいごめんね……

「うん… わかったよ にい…」

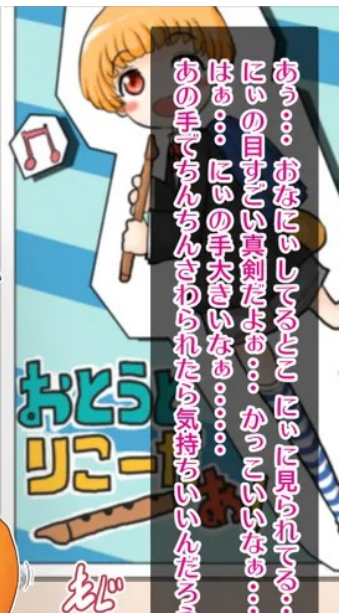


「あう……ちょっとだけ小さくなってるかも……」
「あぁ……はやく診察終わってえ……」
「いにちんちん見られると……大っきくなっちゃうよぉ……」
「小さくて分かりづらいけど……優君もしかして勃起してる!」
「はわ……ば……バシちゃった……」
「そ……それは……にいが……見てるから……」
「え? 俺が何?」
「もお……そんなのいいでしょ! にいのバカ……!」



「ねえに……もうパンツはいてもらい……」
「それをしうなんてとんでも無い!」
「じゃなくて……えっと……」
「よし優君! オナニーをしてみよう!」
「え!? お……おなに……? な……なんて……?」
「おっぱい出現の条件がオナニーかどうかを調べるには!」
「もう一度オナニーをするのが一番なんですよ優君!」
「だから別に兄ちゃんが見たいってわけじゃないよ……」
「実験と検証なんだよ優君! だからさあオナニーを!」
「さあ! 兄ちゃんが見てあげるから! さあ! さあ!!」
「そ……そっかぁ……なるほどさすがに!」
「意味は……ちよつと良くわかんないけど……」
「うん……わかったよ……僕のおなにに見てねに……」

あう…おなにいいしてるところにいいに見られてる……
にいの目すごい真剣だよあ…かっこいいなあ…
はあ…にいの手大きいなあ……
あの手でちんちんさわられたら気持ちいいんだろうなあ……



「ん…あ…あんっ………」
「優君の声まるで女の子みたいだねえ…」
はう…声出ちゃってた……
あう…はずかしい声にいいに聞かれちゃった…
「おちんちんそんなに気持ちいいのかい優君？」
にいいに見られてるのが気持ちいいとか言えないよあ…
「優君はいつも何をオカズにしてるんだい？」
おかず？好きなオカズ？えっとハンバーグ……？
ても…おなにいいと関係ないよね……？
「オナニーする時は何を想像してるのかな？」
「えっと…それは…にいの…こと……」
はう…言っちゃった…にいい変に思ったかなあ……？
「なら優君右手を兄ちゃんの手だと思うといいよ」
「そして兄ちゃんのことを呼びながらするんだ」
「そしたらもっと気持ちよくなるからね」
はわ…さっき考えてたことばれてたのかな…!?
にいいって…もしかして超能力者……？



あっ…にいの手って思ってたんですけど…
もっとうそいこと考えたらもっとう気持ちいいのかな？
えっと…にいに見られながらにいの手でされる…
あっ…これすごいわ…じゃあえっと…
にいにちゅーされながらちんちんをさわってもあう…
にやっ…白いおしっこ出ちゃうぞっ…!!

はっ

俺の弟が
萌え萌え可愛いの

にいが…ボクのおっぱいにちゅー…
あひゃっ！これすごいわ…!!
「んっ…にい…にいすきい…」
「ゆ…優君っ!!」
あ…すごい思いついちゃった…
にいとボクがちんちんをさわって…
ああっ！ダメっ！それすごすぎる!!
にいのちんちんすごいよあっ!!
「あっ！にい…でちゃうよあ…」
「あっ！あんっ！にいのちんち…」
「えい！ちよ…!!ゆ…優君っ!!」
あっ！白いおしっこ出ちゃうよ…
にいのちんちんからも出るよ…
にいの白いおしっこ…あっ…あっ！
ダメっ！てるっ！でちゃうよ…!!
「んんっ…!!」



はあ… いっぱい出ちゃった… 白いおしっこ…
「いいもちゃんから出すのかなあ…?」
「いっぱい出したね優君 気持ちよかったのかい?」
「うん… にいが見てたからかな…?」
「いつもよりおしっこいっぱい出ちゃった…?」



「それにしても優君… オナニ… なんてどこで覚えたんだい?」
「えうとね… クラスの女子のたなかさんに教えてもらったんだ」
「好きな人のことを考えながらちゃんをこすしたらいいって…」
「こすこすがよくわかんなかったからくにくにしてるの… 変かな?」
「変じゃないさ… 優君らしくてすごくかわいかったよ!」
か… かわいい… ポクが…
えへへ… にいに可愛いっていわれちゃったあ…♡

「おっぱいの大きさを変わらなかったねに……」
「そうだね……残念だね優君……」
「にいが落ち込んでる……おっぱいあるのイヤなのかなあ……」
「にいごめんね……にいのベッドおしっこで汚しちゃった……」
「全然構わないよ優君！優君が出した物に汚い物なんて無いからね！」
「て言うか兄ちゃんむしろ飲みたいくらい……」
「え……にいボクの白いおしっこ飲みたいの……」



「白いおしっこ飲むの……あ……でも……」
「どうしよ……にいのおなに想像しちゃった……」
「ボク……にいのなら飲むかも……ううん飲みたいかも……」
「ん……どうしたんだい優君……」
「にいもおなにしたいわいおしっこ出るんだよね……」
「そりやあもろん！優君の10倍は出るわっ!!」
「そんなに!? にいすごい……やっぱりにいは凄いねっ!」
「ボクね……ちょっとだけ想像したの……」
「にいがおなにしたいわいおしっこ出してるト……」
「ボクもちょっとだけ……飲みたいかなって……思ったかも……」
「まじですか優君!? じゃあ飲もう! 直接飲みましようっ!!」
「えあ!? ちよくせつ!? にいのちんちんからそのまま飲むの……?」
「そうです! 兄ちゃんのちんちんを咥えて直接飲むのですっ!」
「にいのちんちんをボクのお口で……くわえる……?」
「はわ……にいのを……そんなの……いいの……かな……」

に…にいのちんちんが目の前に…す…すこい…大きい…
「はわ…にいのちんち…えっと…どうしたらいいのい…」
「そっだね優君 まずは舐めてみようか」
にいのちんちんをなめる…どうしよ…すごいドキドキする…
ちんちんなめるなんて変なはずなのに…全然やじやないや…
あ…これにいの味だ…なんてだるにいの味って気がする…
「いいよ優君…兄ちゃんのちんちんはどんな味だい？」
「えっとね…なんだろ…にいの味って感じかなあ？」

俺の弟が
萌え萌え可愛

「それじゃお咄えてみようか優君 てきるかー？」
「う…うん…やってみる…」

にいのちんちんをお口に…はう…てきるかなあ…
これっておなにいのかな？ お口おなにい？
うう…大きすぎてお口に入りきらないかも…
んっ…でもがんばらなきゃ…！
ぜったいにいに気持ちよくなってもらうんだもん！



ん…なんかいいのちんちん美味しいかも……
はあ…お口おなにいクセになっちゃうぞ……
「ねえに…ちゃんときもちいい…」
「勿論気持ちいいよ…ちんこが溶けそうだし…」
「いいが気持ちよくなってくれてる！すていうれしいー！」
「えへへ…もっと気持ちよくなってるねに…」
「うあ…そんなこと言われたら優君…!!」
「うわ！今のに可愛かった♡こう言ったらいいのかな？」
「ふふ♡気持ちいいのに？気持ちよくなってるねに♡」

俺の弟が
萌え萌え

必然

「出る！優君出るよ!! 精液出る!!」
「せええき、白ちおしこのこと…」
「くる！にのせえきくるんだ…」
「優君！無理だったら離していいからねー！」
「ん…にのちんちん…じえんちんのもよ…」
「あっ！ちんちんがふくらんだ！出るの!」
「きた！にのせえきお口に出てるっ！」
「すごい！にの味が中に広がってるっ！」
「ああだめ…お口に入りきらないよあ…」

うわ

「あう……ちょっとごぼしちゃった……」
「せつかくにいが出してくれたのに……」
「ごめんねに……全部飲めなかった……」
「十分だよ優君!! よく頑張ったね……」
「不味かったらベツしてくれていいんだよ」
「ああ……にいがなでなでしてくれて……」
「にいの手大きくってきもちいいなあ……」
「やっぱりにいは優しいなあ……」

俺の弟

「えへへにいのなでなで大好き……♥」
「ねえに……ちんちん気持ちよかったなら」
「ボクまたお回なにいしてあげるよ……」
「うう……優君……君って子は……!!!」
「そしたらに……またなでなでしてね……♥」
「実は優君 もっと気持ちいいのがあるのです」
「それはちよっと痛いかもしれませんが……」
「痛いの……? でもに気持ちいいんだよね?」
「にいが嬉しいことなら……ボク頑張れるよ!」



んひゃっ!? なな... なに!? これなに!? 何が起ってるの!?
なにか入ってきて... えっ!? まさかこれっておしりの穴...!?
うそ... にいの指がボクのおしりの穴に入ってる...!?
「優君はお尻の穴まで可愛いねえ」
「優君 お尻 気持ちいいかい?」
にいの指が太くておしりがジンジンして気持ちよくなって...
あう... でもそんなのはずかしくて言えないよあ...
「これからね 優君のお尻の穴に」
「兄ちゃんのちんちんを挿れるんだよ」

んひゃ

んひゃ

ええええええええっ!? にいのちんちんをお尻にっ!?
「だからちゃんと入るように挿ぐしてるんだよ」
「ほほ... ボクのおしりの穴にちんちんを...」
「にい... ボクのお尻でおなにいするの?」
うそ... どうしよ... お尻おなにいなんて...
お口でもちよっと気持ちよかったのに...
「違うよ優君 これからするのはセックスだよ」



「せつくす…おなにいとは違うの…」
「セックスはね好きな人同士でする愛の行為なんだよ」
「好きっ!? にいがボクのことを…好き…」
「分かるかい? ちんちんがお尻の穴に当たってるの」
「あう…当たってるだけなのに気持ちいいよ…」
「兄ちゃんは今 優君への大好きって気持ち全部」
「ちんちんに込めてるんだ それを優君!」
「お尻の穴で全て受け止めて欲しいんだ!!」
「え!? ええええええええ!!」

「えあ…でもにい…これって多分えつと…」
「よく分かんないけどイケナイと…だよね…」
「正直そうです! 兄弟でしちやダメなことです!!」
「そ…そうだよね…でも…にいはしたいの…」
「うん! ずっと前からしたいって思ってた!!」
「…ん…そうか…そう…なんだ…」
「にいボクとしたいと思ってたんだ…そんなの…」
「ダメなんて言えない…欲しいって思っちゃう…」
「にい…ボクもね…大好きだから…」
「だから…いいよにい…しても…」



「ほら優君わかるかい？」
「兄ちゃんのちんちんが優君のお尻の穴とキスしてるよ」
あう：「にいのちんちん熱くておしりとけちゃうぞ……」
でもいいのか？ 気持ちいいけど……いいのかな？
「ねえにい……ほんとにおしりに入れちゃうの……？」
「こんなのしていいの？ おまわりさんに怒られない？」
ふにやっ！ ちんちんがおしりの穴をひらいてるっ……!!
だめこんなの……おしりの穴がわれちゃうよ……
「ふにい……！ おしりの穴ひらいちゃうよに……」
「例え逮捕されようと兄ちゃんはやめませんっ!!」
はうっ♡ にい男らしい……！ かっこいい……!!

ああ……にいのちんちんが入ってくる……♡
からだの中にもちんちんが入ってくる……
にいがボクの中に！ すこい……すこいよあ♡
「ゆ……優君 大丈夫かい？ いけそう？」
「んっ……えへ……だいじよぶだよに……」
「にいのちんちんでお腹一杯だけ……平気だよ……」
「これから動かすからもつときついけど大丈夫かい？」
「うん……こんなの初めてだけどだいじよぶだよ……」
「えへへ……だって……にいのちんちんだもん……♡」
「ごめんね優君！ 兄ちゃんもう止められそうにない!!」
いいよにい♡ いっぱいボクで気持ちよくなって!





「いのちんちんがボクの中を『ス』スしてるっ！そうかこれが『ス』スなんだ…
「凄いよ優君のアナル！ちんこに絡みついているよ！」
あひゃっ♡なんかおくに当たった…!?なに『ス』!?奥に何かあるよお♡
ソ」…ちんちんて押されると…ダメえ♡変な声でちゃうよお…♡
「ほら！優君！前を見てごらん!!見えるかい？」

「優君のお尻の穴がちんちんを食べてるのが」
あう…これボクのおしりの穴…?
こんなに大きくひらいていのちんちんを…
こんなの見せないでえ♡変になっちゃうよお♡
「そのほっかり開いてるお尻がアナルだよ」
「そして今ちんちんが当たってる…!!」
「それが前立腺！ちんこを挿れられるのが好きな」
「優君の！女の子の部分なんだよう!!」
ボクおとこの子だよお…あっ♡ほにゃっ♡
にい♡そこちんちんて叩いちやダメだよお♡
おんなの子みたいな声止まらなくなっちゃう♡

ス
ス

ス
ス



はにやっ♥だめえ♥なんか変…♥
あたまがふわふわしておかしいよ♥
なんか来ちゃう…♥変になっちゃう…♥
おしりちゃんにこわされちゃう♥
「優君イクのかい？イクんだね!」
いくってなに？あっ♥きちゃうっ!!
「兄ちゃんももうすぐイクから…」
「あとちょっとだけ我慢してね…!」
「そしたら一緒にいこう…!!」

そっかこれが「イク」なんだね……
にいもいくんだ…ボクのおしりで♥
どうしょ…すくっれしいよ♥
あっ♥きもちいいのがすくった♥
にいがボクにく♥ボクがにす♥
「よし！イクよ優君！一緒に!」
うん♥いって♥ボクでいい♥
ボクもすくいのきちゃう…♥えへ♥
「優君大好きだよ!」
「うん♥ボクも♥にいがいいすっ♥」

「へへー 優君のオシロイ!」
「おしりちゃんにさわられるのはいい♥
うん♥おしりちゃんにさわられる♥
えへ♥えへ♥えへ♥えへ♥えへ♥」

はう……♡にいのせいえきておしりの中たぶたぶだよ……♡
なんだろ……にいがボクを大好きって気持ちがおなかにいつぱいで……
はあ……♡すごい幸せ……♡にいのちんちんってすごいなあ……♡
「ご……ごめんね優君………」
え……？なんて？なんて謝るのに……？
「我慢できずに優君を活していつわるもじちゃった……」
「らいじよぶらよに♡にいの気持ちほわかってるよ♡」
「今ボクの中はね♡にいの大好きれいっばいなんらよ♡」
だからに悲しそうにしないでね……ボクは幸せだからね♡

「じゃあ抜くよ優君……」
あう……ちんちん抜いちゃうんだ……
ずっといれててくれてもいいのになあ……
「優君のお尻の穴最高に気持ちよかったよ」
よかった!!にいの気持ちよかったんだ♡
ボクのおしりてにいが最高に気持ちよく……
えへ♡うれしすぎて泣いちゃうそうだよ
「んへ♡えへへ……♡よかったも……♡」
「て……ん……あれ……えう……」
「どうしたのにい？あ♡またするの……♡」
「もちろんしたいけど……じゃなく……」

おしり
おしり

おしり

「優君のちんちんが…無いっ…!!」
「えあっ!? ほ…ほんとだ…!?」
「ち…ちんちん無くなっちゃった…」
「ねえに…ど…どうしよあ…」
「おっぱいもまた大きくなってるじ…」
「はわ…あう…に…にち…!!」

ど…ど…どうしよ…ちんちん無くなっちゃった…
ちんちんが無くなったってことは…えっと…
あれ…? ポクおしっこどうやってするの…?
あう…もうポク一生おしっこできないよあ…
「えっと…優君落ちていて…」
はう…おちついてなんだっけ…うんど…
あーちんちんが落ちたってことかな…?
ポクどこかにちんちん落としちゃったのかな…?
ああ…違う…そうじゃないよあ…
「よし! 優君!」
に…に…ちんちん見つけたの…?
「取り敢えずこれを着ましようっ!!」



ええっけなにこの服っけなんか可愛い服だけとお..
なんてにこんな持ってるの...? カノジョさんのかな..
そうだよね... にいかっこいいもん... 「イビトいるよね..
」ボク男の子だよ... こんなの変だよ..
「優君はおっぱいがあってちんちんが無いんだよ!」
「もう優君は女の子なんだよ! だから変じゃないよ!!」
かもしれないけど... でも... カノジョさんの服なんて..
「似合ってるよ優君! 可愛さ3倍! いや百倍だよ!!」
「ん... でもお... やっぱ脱いでいい...?」



「だつてこれ... にのカノジョの人の服でしょ...」
「え... ん? え? 彼女...?」
「こんなの持ってるってことは... そうなんだよね...?」
「ボク脱く... こんなの... やだもん...」
「いやいや! いないから! 恋人とか彼女とかいないからね!!」
「うそ... だつてにいかっこ良くて優しいもん... 絶対いるもん...」
「いるわけ無いよ! 兄ちゃんが好きなのは優君だけなんだから!!」
うそ... にいがボクのことだけを... 好き...?
「えうっ... にい... ほ... ほんとに...」
「本当だよ! この服は優君に着せたくて買ったものだし!」
「優君が女の子になって兄ちゃん超ラッキーだと思ってるにね!」
「言うかこれ優君をお嫁さんにしてさるとか思ってるくらいだよ!!」
ボクがにのお嫁さん...? そんなのステキすぎだよ...」

「優君 ちゃんとパンツも履いたのかな？ スカートをめくって見せてもらえん」
「ん…これいいのいい…」
おんなの子のパンツをはくだけでもドキドキするのにな…
にいがてる…ボクのおちんちんが無くなったあそこを見るよお…

ドキ

ドキ

ドキ

「凄く似合ってるよ優君…超かわいいよ」
か…かわいい…はっ…
え…なに今の？ お腹の奥がキュンってなった！
「あれ？ 優君少し濡れてきたねえ…」
「え…？ めれるってなに…？」
「優君がエッチな気持ちになっただってことだよ」
「かわいって言われて嬉しかったのかな？」
「それともパンツを見られて興奮してるのかな？」
あう… 両方ばれちゃってるよお…
にいいエッチな子キライだったらしよ…
めれちゃダメ…めれちゃダメ…



「あう……！なにしてるのに……!? ちんちんめないでえ……」
「いいがちんちんめてる……!? いいがボクのちんちんを……♡」
「ちんちんじゃないよ優君……ここはおま○こだよ」
「おま○こ……? なんたる……すぐドキドキするエッチな言葉……」
「優君のエッチで敏感なおんなの子の部分だよ……」
「いいがぼくのおま○こを……おんなの子の部分を……♡」

「いいの舌でボクのおま○こ……バターみたいにとかされちゃうっ♡
こんなの気持ちよすぎてめれるの止められるはずないよお……♡
はわっ! いいがボクのおしっこ飲んでる!? いいがボクのを……♡」
「んにゃっ♡ やだに……ボクのおしっこ飲んでじゃだめだよお……」
「これは優君のエッチなお汁だよ……溢れて止まらないね……」
「優君はエッチでイケナイおとこの子だったんだね……」
「だっただって……いいになめられたらそうなっちゃうよお……♡」
「いいんだよ優君 いっぱい濡れないと兄ちゃんのちんちんが入らないからね」
「う……うそ……いいのをボクのおま○こに……? おしりの穴みたい……?」
「優君のおま○こに兄ちゃんのちんちんを挿れて恋人セックスをするんだよ!」
「ボクといいが恋人っ!? はうっ♡ またキュンってなっちゃうたよお……♡」



「優君いいかい？セックスをするよ…」
「う…うん…いいよに…♡」
「いと恋人セックス…♡」
「ああ…ボク絶対いっばいめれてるよあ…」

「初めての恋人セックスは痛いけど我慢できるかな…♡」
「せつくすできたらボク…いと恋人になれるんだよね…♡」
「だったらボク…痛いのなんて我慢できるよ…♡」
「うう…ゆ…優君…」
「大丈夫だよに♡きつと痛くなんてないんだから
だってにいのちんちんだもん♡痛いはすないうよ♡
それにね…ちんちんが欲しいって…
ボクのおま〇こ言ってる気がするんだ♡」

「優君いいかい？セックスをするよ…」
「う…うん…いいよに…♡」
「いと恋人セックス…♡」
「ああ…ボク絶対いっぱいめれてるよあ…」

「初めての恋人セックスは痛いけど我慢できるかな…♡」
「せつくすできたらボク…にいと恋人になれるんだよね…♡」
「だったらボク…痛いのなんて我慢できるよ…♡」
「うう…ゆ…優君…」
「大丈夫だよに♡きつと痛くなんてないんだから
だってにいのちんちんだもん♡痛いはずないよ♡
それにね…ちんちんが欲しいって…
ボクのおま〇こ言ってる気がするんだ♡」

「優君いいかい？セックスをするよ…」
「う…うん…いいよに…♡」
「いと恋人セックス…♡」
「ああ…ボク絶対いっぱいめれてるよあ…」

「初めての恋人セックスは痛いけど我慢できるかな…♡」
「せつくすできたらボク…にいと恋人になれるんだよね…♡」
「だったらボク…痛いのなんて我慢できるよ…♡」
「うう…ゆ…優君…」
「大丈夫だよに♡きつと痛くなんてないんだから
だってにいのちんちんだもん♡痛いはずないよ♡
それにね…ちんちんが欲しいって…
ボクのおま〇こ言ってる気がするんだ♡」

「優君のおま○こにちんちんを……」
「えへへ……なんかドキドキするね……♡」
にいにドキドキが聞こえちゃってるかも♡
はやくきて♡にいの全部をいれて♡



「辛かったら止めるからね……我慢できなかったら言うんだよ」
「えっとねに……その……おま○こ……?」
「出来たばかりだから……よく分らないけど……でもね……」
「ボクはにいのことが大好きで……にいの全部が大好きで……」
「だからね……ボクのおま○こも絶対、にいのちんちんを好きになるよ♡」
「ボクは平気だよ♡だからにいはいっぱいいっぱい気持ちよくなってね♡」
「優君……! もぉ! 力デて天使なんだから!」
「大好きだよ優君……じゃあいっよ優君……」
「うん♡きゅん♡……♡」
ああ……にちがくる♡にのちんちんがボクのおんなの子の中に……♡

あぁっ♡ にいのちゃんがはいつてんっ♡
「ちんちんにからたをこじ開けられてるよぉ♡」
「大丈夫かい優君？ 平気？ いけそうや」
「だいじよぶだよ… にい… らける…」
「痛くないける… なんかに変になりそ…」
「頭のなか… にいとちんちんらけれ…」
「ほかのが無くなっちゃいそなの…」
「にい♡ ちんちん♡ にい♡ ちんちん♡
あおだめえ♡ 他のこと考えられないよぉ♡」



「それでいいんだよ優君」
「おま○こに集中して兄ちゃんだけを感じればいいんだ」
「うん♡ わかったよにい…♡ セックス続けろ…♡」
「それでボクの中をにいってほしいにしてお…♡」
「するよ優君！ 優君を兄ちゃんの物にするからね」
「ボクがにいの物に…♡ はうっ♡ ステキすぎだよ♡」
「よし！ 動くんよ優君！」
「うていてにい♡ ボクのせんぶをにいの物にしてえ♡」

「あんっ♡ にいがボクの中に入ってくるよぉ♡」
「ちんちんがおま○この奥に当たってる♡」
「おま○こを」ン」ンってノックしてる♡」
「はに♡ にいのちんちんおきすぎだよ♡」
「はあ♡ ちんちんであふれちゃいそうだよ♡」
「かららの中… ちんちんれいっばいだよ♡」
「はう♡ おま○こがキュンキュンしちゃう♡」
「ボクのおま○こにいのちんちん好き過ぎだよ♡」

「そんなに気持ちいいのかい優君!? 兄ちゃんのちんちんが…!」
「うんっ♡ きもちいいよ♡ ちんちんちんちん♡」
「やっぱりボクのおま○こ♡ にいのちんちん好きなの♡」
「に♡ すき♡ らいすき♡ にいのちんちん好き♡」
「もぉ! 優君は! 純粋なのにエロいとか! このイケナイ子め!」
「うん♡ ボクいけない子なの♡ らからもっとなんてめっして♡」
「いっばいめっして♡ ちんちんおま○こをいっばい叱って♡」



「初めてなのになんかすんなり受け入れて……」
「男の子なのにおま○こでちゃんと絡みついで……」
「このいけない子め！ いけないエロま○めー」
「い♡もっと言つてえ♡ポクのことをもっと叱ってえ♡」
「あん♡ちつてえ♡にいのことすきなんらもん♡」
「んにやあ♡にい……♡ちめえ♡とけちゃうよお……♡」
「イクのか優君？ おま○こで……俺のちんちんで……」
「うん♡♡♡♡♡さっきよりすこのきちゃう♡♡♡」

「いっちゃうよお♡おま○こでいっちゃうよお♡」
「ちんちんでいっちゃう♡おんなの子になっちゃう♡」
「いのちんちんでおんなの子にされちゃう♡」
「ああ！ 出る！ 優君出るよ……」
「にいくんだね♡ポクもいっちゃうよ♡」
「にいていく♡にいがポクでいく♡ポクがにといく♡」
「一緒にイクよ優君！ さあ俺のちんこでイク出」
「うん♡♡♡♡♡あ♡あ♡あ♡」
「すこい♡すこい♡にのちんちんすこい♡あ♡あ♡」
「いっちゃううううううううううう♡♡♡♡♡」



11/20/2020

「はうう♡ ダメえ♡ せいえぎの熱さでおま○こ溶けちゃうよお♡
おま○こ溶けてなくなっちゃうよお♡ あっ♡ これまたくるっ♡
あっ♡ 今いったばかりなのにつ♡ あっ♡ またいつっちゃうよお♡
「いっくっ♡ いっっちゃう♡ にいのあついせいえぎれいっっちゃうっ♡」
「んううう♡」

はにゃ…♡しもこいよお…♡
ボクの中…♡いっばい出たよお…♡
からだの中全部にいっばいよーされちゃった♡
あぁ…♡これがいいの物になるってことなんだ…♡
「優君大丈夫かい…♡平気？動ける？」
「あ…ちいじよぶらよに…♡」
「えへ♡ちよっとあたまはーとしちゃった♡」

「えへへ♡いっばい出たねに…♡」
「ねえに…♡いっばい出たってことば」
「いっばい気持ちよかったってことだよね？」
「おお優君…最高に気持ちよかったよ」
「いいがボクのおま○こで気持ちよく…はうう…しあわせだよ♡」
「優君のおま○こが良すぎて兄ちゃんのちんちん溶けるかと思ったよ」
「ボクも溶けちゃったよ♡にいとっしょ♡ぶるぶる♡うれしいな♡」
「ぶる♡に♡これってボクとにいは恋人…だね♡」



「えへへ♥まだおなかの中がホカホカしてるよ♥」
「優君 お尻とおま○こどっちが気持ちよかった？」
「えっ!? も…も…変なこと聞かないでいい…」
「そんなの両方ともすっごく気持ちよすぎて……」
「どっちかなんて決められるわけないよお……」
「にいのちんちんだもん……どこでも気持ちいいよ……♥」
「ゆ…優君……!!!」
「あう…選べなかったよお…ホクってゆっぴーふだん……」



「そうだ優君！お風呂に入ろう！」
「お風呂？お風呂？するのかな……あう…想像しちゃった……♥」
「え……お……お風呂……お風呂？またするの……」
「ちち…違うよ！ほら！汚れた身体を綺麗にしようってね……」
「おと兄ちゃん 恋人同士お風呂？イチャイチャするのが夢なんだよお……」
「そっかお…しないんだ……あ……でもイチャイチャもスナキかも……♥」
「お風呂でイチャチャ……うん♥入る！えへへ♥入るにいい♥」
「あ……でも……」
「ん？どうしたんだい優君？」
「ホク全然汚れてないよ……だってにいのせいなんだもん……♥」
「くふっ……!!! ゆ…優君……」
「さあ入ろう優君！そしてイチャチャしまくらっ!!!」
「やったお♥にいとお風呂でイチャイチャ♥」

「あんっ♡もおにい…これイチャチャじゃないよぉ…♡」
「やっぱりするんだぁ♡しないって言ったのに♡えへへ♡」
「しかたないよ！優君の産まれたままの姿が可愛すぎるから！」
お風呂でなめなめされたらお湯が入っちゃう♡ほかほかだよ♡
ああ…ちんちんいれてほしい…いれてくれないかなに…
「ああもう我慢できない！優君♡こっへっ♡しようー」
「しないって言ったけど…していい優君♡いいかな？」
「もお…にゅ…♡」
にいと心がつつじた♡やったぁ♡ちんちんしてくれる♡

「約束破ってごめんよ…」
「怒らないで優君…っす…」
「もお…違うよにゅ…」
「僕のおま○こはもうにゅのなんだよ」
「だからにゅがしたいな…」
「いつでもしてくれていいんだよ♡」
「うう…優君…♡」
ふふ♡にゅかわらさ♡





此



はぁ♡ にいてボクの中いっばい♡ しあわせだよ♡
にいのせいえきほかほかしてあったかいや♡ えへ♡
「はにやつ!? あっ… ふにいっ…!!」
「ど… どうしたの優君!? 大丈夫かい!?」
「あ… だいじょぶだよに♡ なんかお腹が…」
「お腹の中で何かふくらんでる…!? なにこれ…?」
「お腹痛いのかい?」
「あ… もしかして兄ちゃんの精液のせい…?」
「違うよに… にいのせいえきは大好きだよ…」
「んーん… なんかお腹の中がぎゅってなってる…」
「なんだろ… 今までと違う感じ…」
「あ… あれ!? なんだろ… なんか変な気持ち…」
「はう…♡ にい… ボクちよつと変かも…♡」
「どうしよすつごくにいのちんちんが欲しいよ…♡」
「お腹の奥がうずうずする♡ せいえきほしいよ♡」
「ねえにい…♡ お風呂もうあがろうよ♡」
「お風呂じゃだめ… ペッドで何度もしてほしい…♡」
「どうしよボク… こんなこと思うだなんて…♡」
「すこエッチな子になっちゃったかも…」



「ねえにぃ…ボクねお腹の奥がキュンキュンしてるの…」
「それでね…にいのちゃんが欲しくなっちゃったの…」
「だからねにぃ…えっとね…またボクに…して♡」

なんだろう…体のどこかがちんちんを欲しがってる…
せいえきをいっぱい注いで欲しいって言ってるみたいなの…
にぃ♡うすうすして止まらないよ♡はやぐう♡
「ねえにぃ…♡してくれないの…♡」
「するよー♡うすうす♡」
やったあ♡してくれるんだあ♡えへ♡うれし♡
「もう優君がダメって言うても止まらないからねっ♡」
ダメなんて言わないよ♡止まらなくていいよ♡
だからいっぱいしてね♡にぃ♡



ああああっ♡にいのちんちんがきたあ♡
にいが後ろからするのすこいよあ♡
ちんちんがおま○この奥までとどいてるう♡
さっきよりもっとずっと奥まできてるよあ♡
はうう♡なにここ♡さっきまでなかったのに♡
ボクの中になんか新しいのがきてるよあ♡
でもここ♡ちんちんがすっほりおさめてるう♡
回みたいなのがちんちんに吸いついてるう♡



ここすこいよあ♡なんかきちゃうよあ♡
体がひらいちゃう♡おま○こがひらいちゃう♡
「にい…♡ひらいちゃうからあ…♡」
「おなかのおくれなんかひらいちゃうよあ♡」
「優君それは子宮だよ！そこに精液を注いだら」
「兄ちゃんと優君の赤ちゃんが出来るんだよ！」
にいとボクのおかちゃん!? そっかあ♡
だからせいえきほしいって思ってたんだあ♡
せいえきほしいよあ♡あかちゃん欲しいよあ♡



あかちゃんほしい♥でも♥ほくおとこの子なのにい
あかちゃんなんてつくったらい怒られちゃうよ♥
たいほされちゃうよ♥そんなのやだよ♥
「射精すよ優君！優君の子宮の中に精液を！タップリと!!」
「あっ♥でも♥あん♥に♥に♥でも♥」



「いいの...? ホクおとこの子だよ...♥」
「にいのあかちゃん作ってもいいの? ほーりついはんじやないの?」
「そうだね優君...男なの...弟なの妊娠とかおかしいね...」
「だからこそ最高じゃないか!!」
「いいの? あかちゃん作ってもいいの? そっか♥いいんだあ♥
「優君は嫌なのかい? 兄ちゃんの赤ちゃんはイヤなのかい?」
「やじゃないよ♥ほしい! にいのあかちゃんほしいよ♥」
「じゃあどうして欲しいんだい!? 優君の回からはつきり言うて!!」
「ホクはおとこの子らけどにいのあかちゃんがほしいれす♥♥♥」
「だからにいのせいえきをホクのしきゅうにいっばい注いんたさっ♥♥♥」

12/11

12/11

「さあ優君！ イッちゃえ！ 男の子なのに精液で受精してイッちゃえ!!!」
「弟なのにちんこでオシナにされて孕まされながらイッちゃえ!!!」
「ボクおとこの子なのにじゅせいでいっちゃう♡ せいえぎでいっちゃう♡
にいにおんなにされていっちゃう♡ ちんちんでおんなにされていっちゃう♡
いく♡ いく♡ にいきい♡ にいだいきい♡ にい♡ にい♡ にい♡」



「えへ…♡にいっぱいしたいね…♡」
「しきゅうの中にいのせいえきていっぱいだよ♡」
「ボクちゃんとじゅせいできたかな…や」
「もしデキてなくてもデキるまで何度でもやるぞー」
「そうかあ…そうなんだ…」
「またしてくれるんだ…それなら…」
「じゃあじゅせいできてなくても…いいかなあ…」
「ん？もしかしてまだしたりないのかい優君？」
「えあ…だって…にいとせつくすしてたらその…」
「にいがボクのこと好きだってのが伝わってきて…」
「お腹がボクがボクして…幸せなんだもん…」

「今朝まで男の子だったのにもうちんこ大好きとか…」
「優君はもう！エ回すぎだよ！最強だよ！！」
「えへ♡やったあ♡最強だあ♡ふふふ♡」
「あっ…えっとなんだっけ…そうだ…」
「ど…どうしたんだい優君…？」
「ボクをこんなにエッチにして…責任とってよねに…♡」
「も…もお!! そんなのどこで覚えたの優君!!」
「取るよ責任！するよ何度でもっ!! 今夜は寝かせないよう!!」
「えへ♡に…だあいすぎ♡」
「朝になるまでいっぱいしてね♡に♡」



「にぃすこいね♥6回もするんだもん♥」
「兄ちゃんはまだカラッカラだね……」
「これだけしたらさっさとじりせいできてるよね♥」
「きゅんきゅんさ！楽しみたね優君！」

「ねえ、さっさと来るのかな……」
「ん……ん……何がたの優君……」
「えっとね、サキとねえのあかちゃん」
「十月十日って言うから……十ヶ月後くらいかな」
「じゃあそのときは窓を開けてかなきゃだね」
「ん？ん……」
「やっぱり大きいのかな？もしかして玄関から来るのかな？」
「ピンポンするのかな？寝てる間に来るのかな？」
「え？優君……まさか来るってのは……」
「もちろん！ウソトリだよー」
「マジですか優君……」



10月3日



今日も元気な一日だよ
みんな笑顔で過ごそう
お友達と遊ぶのも
楽しいからね
元気な子でいよう
みんなの笑顔が
大好きだよ
今日も笑顔で
過ごそう
みんなの笑顔が
大好きだよ

天気 (傘)



今日も元気な一日だよ
みんな笑顔で過ごそう
お友達と遊ぶのも
楽しいからね
元気な子でいよう
みんなの笑顔が
大好きだよ
今日も笑顔で
過ごそう
みんなの笑顔が
大好きだよ



今日も元気な一日だよ
みんな笑顔で過ごそう
お友達と遊ぶのも
楽しいからね
元気な子でいよう
みんなの笑顔が
大好きだよ
今日も笑顔で
過ごそう
みんなの笑顔が
大好きだよ

11月1日 木 天気



今日も元気な一日だよ
みんな笑顔で過ごそう
お友達と遊ぶのも
楽しいからね
元気な子でいよう
みんなの笑顔が
大好きだよ
今日も笑顔で
過ごそう
みんなの笑顔が
大好きだよ

HAPPY END



おと い も
弟妹

女体化した弟は

俺の弟で妹で恋人でそして嫁



















